生野銀谷まち歩き 銀谷祭り マップ

まちかどギャラリー

生野鉱山の繁栄を今に伝える生野の町並み。 地域の皆さんのご協力で少しだけ公開します。 個人のお宅は軒先に古道具を展示していますので、中には入らないようお願いします。

A 生野まちづくり工房「井筒屋」

生野銀山に代官所があった時代に建てられた郷宿。母屋の建築は1832年。邸内では古民家喫茶があり、生野紅茶や手作りクッキーでおもてなし。手作りオオサンショウウオ（あんこう）グッズも大人気です。

B 口銀谷銀山町ミュージアムセンター（旧浅田邸）

昭和初期の和風建築と、大正期のタイル張り洋館が独特の雰囲気を醸し出し、東側の建物は播但鉄道の祖である浅田家の分家として、西側の町屋は吉川家の分家として建てられました。

C 旧生野鉱山職員宿舎・志村喬記念館（甲社宅）

官営生野鉱山に勤務した日本人官家のための和風建築の官舎74棟が現存。このうち3棟は明治9年に建てられました。日本で最初の社宅ではないかと推定されています。

D 生野書院

材木商の邸宅（大正期）を改修した建物で、入口の正門は、かつての鉱山長社宅から移設されたものです。生野銀山が古くから栄えたことを伝える資料を展示しています。

E 生野クラブ

明治19年に建てられた大山師の旧邸。明治21年には、生野鉱山を訪問された有栖川宮熾仁親王（皇女和宮の元婚約者）がご宿泊されました。

F 但陽美術館（絵画展・貨幣展）

生野出身の三巨匠の作品や兵庫ゆかりの作家の作品、バルビゾン派を中心としたフランス画家の作品を公開します。昔の貴重な貨幣も併せて展示します。

G 源郷館（桑田邸）

江戸時代に建築された地役人邸宅の様式をもつ伝統的な和風建築。江戸時代から昭和中期まで居宅として使用された生野に残る最古の民家と言われています。

H 旧海崎医院

明治20年に建てられた西洋文化を取り入れた和洋折衷の建物です。個人医院で、生野の鉱山文化を代表する貴重な文化財です。

I 石川醤油店

創業は約200年前。醤油蔵は明治時代の建築。むしこ窓が施され、酒蔵に似た雰囲気があります。
江戸時代の本陣の看板、家紋入りの嫁入り道具、盤双六（遊び道具）等の展示。江戸時代の双六で遊べるよ！

J 藤田邸（器と木のカトラリー響）

明治時代後期の建築。美しい出格子が特徴です。
懐かしい小道具の展示をしています。
雑貨（鞄など）、陶器（九谷焼、信楽焼、有田焼）の販売も有り。

K すぎうら

江戸～明治創業、屋号（扇屋→杉浦正礼堂→すぎうら）、現在の場所は昭和のはじめに移ってきた。祖父の時代は、東京で髪飾り等の製造卸を行っていました。
昭和の生活雑貨、現金仕入帳、商業地図、教科書などの展示。

L たいむとんねる －竹ダ屋 虫干し中－（永田燃料店）

大正生まれ、モノを捨てない時代のおばあちゃんが、屋根裏部屋にしまい込んでいる思い出の（？）あれこれを虫干し感覚で並べています。明治、大正、昭和のSDGsなモノたちと共に、時代の空気を感じてください。

M アマノヤ

創業74年の電気店。
昭和の家電製品の展示、ミニ青空市店頭で「掘り出し物」あり

N イイヅカ

昭和の懐かしい商品を展示

O 口銀谷の町並みをつくる会（マインホールロビー）

昭和時代の鉱山町の写真をマインホールロビーに展示します。
古くから栄えた歴史や文化に満ちた魅力ある町並みをご覧ください。

P 上田クリーニング

地元に愛されるお店をモットーに父から店を受け継ぎ35年。にぎやかな昭和の生野を今も思い出しています。
昔のタバコの看板やレコードなどを店先に展示！

Q 小椋酒店

創業約100年。豆腐屋、八百屋、酒屋と商売を続けています。
五玉そろばんや酒瓶など展示。

R 朝来組仏教婦人会（唯念寺 みの庵）

昭和30年代に唯念寺で保育園を開園していた写真、町制65周年の仮装行列の写真展示。
フリーマーケット（日用品、手作り品、食器、衣類など）を開催します。
昔懐かしの掘り出し物が見つかるかも？ぜひ遊びに来てください。

S 町屋カフェ 和ゆき

築100年を超える町屋をリノベーションしたカフェです。
懐かしい道具などを店先に並べています。店内の随所にも調度品を置いています。ゆっくり町歩きを楽しんでください。

T 思い出の記録博物館

懐かしい昭和レトロな人形やおもちゃに漫画本、キャラクターグッズが1万点以上も並んでいます。企画展では懐かしのお宝などの展示もあります！入館料は初回500円。2回目以降は200円。

シャトルバス時刻表

銀山発		生野駅着
11:00	→	11:20
12:00	→	12:20
13:00	→	13:20
14:00	→	14:20
15:00	→	15:20

シャトルバス時刻表

生野駅発		銀山着
10:30	→	10:50
11:30	→	11:50
12:30	→	12:50
13:30	→	13:50
14:30	→	14:50

☆銀石（カラミ石）
鉱山の稼錬くずを固めたもの。現代のリサイクル品と同じと考えられています。生野中いたるところで見ることができます。
（主に塀・階段・井戸・土台等）

☆生野瓦
寒暖の差が激しい生野では、割れないように焼け温度が高温であること、又釉薬に鉱滓が使われた事等から独特の色合い（ベンガラ色）の瓦を使用。現在も古民家では、生野瓦が屋根に葺かれています。

銀の馬車道
銀を運ぶために つくられた生野と姫路を結ぶ交通網 日本で初めての高速産業道路です。

新道
馬車道を作るため市川が埋め立てられ、護岸の石垣は生野城の石が利用されたとも。

お食事・カフェ

A 井筒屋
9:00～17:00
生野紅茶、コーヒー
ゆずジュース

B 旧浅田邸
9:00～17:00
鉱山うどん、
コーヒー、紅茶等

C 甲社宅
9:00～17:00
コーヒー、ラムネなど

さくらうさぎ
8:45～17:00
喫茶、生野ハヤシライスなど

芒種
11:30～18:00
ランチタイム11:30～14:00
喫茶、スイーツなど

クロクログ
8:00～19:00
喫茶、定食
生野ハヤシライスなど

アルジャン
9:00～16:00
喫茶、スイーツ
生野ハヤシライスなど

花
11:30～20:00
定食、コーヒーなど

カフェ スパロー
9:00～17:00
牛・豚・鶏を使った各種ランチ
生野ハヤシライスなど
手作りケーキ

生野銀山内 レストランマロニエ
11:00～15:00
生野ハヤシライス、オムハヤシ
お子様ランチ

S 町屋カフェ 和ゆき
11:00-17:00 日曜定休
ランチタイム11:00-14:00
創作料理、スイーツなど

Tea room kotori
11:00-17:00
生野・インド・スリランカ紅茶
スコーン、ケーキ、キッシュなど

生野歴史散策スポット

1 生野銀山寮馬車道（銀の馬車道）
明治9年完成。レオン・シスレー総監督のもと作られた日本初の高速道路。最新技術のマクアダム式道路の技法を取り入れました。この道路を利用して生野から姫路まで鉱石を運搬しました。

2 鉱石の道
国内有数の鉱山地帯である南但馬には、生野のほかに神子畑、明延、中瀬鉱山などがあります。採掘から選鉱、製錬を効率よく行うための輸送手段として、これらの鉱山は時代によって馬車、道路、鉄道などで結ばれました。現在はこれらを総称して「鉱石の道」と呼んでいます。

3 播磨口番所
生野町の出入りの要所、27ヶ所に設けられた小規模の関所を番所と言い　その中で最も重要な関所でした。朝明六つ（6時）～夜四つ（22時）の開関時、銀山の警備と金・銀・銅・鉛白等を厳重に取り締まり、物資に税をかけ人々の出入りにも目を光らせ　怪しい者を通しませんでした。

4 一里塚跡
江戸時代に生野代官所により、関宮町中瀬と青垣町遠阪までの間に、1里（約4Km）ごとに設置されましたが、跡としてはっきり残っているのはこの場所です。一里塚の横に流れている岡田川と泉谷川が、但馬国と播磨国の国境でした。またこの両国川はもとは生野城の外堀であったことが分かります。

5 生野城下町の特徴「鍵の手」の道
敵の攻撃を防ぎ大人数で通行できないように道幅を狭くし、道路を屈曲させるかぎ型の道。昔の土蔵などの鉸鎖を開ける鍵の形に似ているので「かぎの手」と 呼ばれています。城下町に見られる典型的な道です。

6 トロッコ軌道跡
かつては軌道が敷かれ、生野鉱山で産出された鉱石を載せたトロッコが走っていました。アーチ状の軌道跡やモダンな石積みが印象的で、生野城を取り壊した時の石垣を河川の護岸に利用したとも。

7 旧生野警察署（一区公民館）
お雇い外国人から西洋の技術を学んだ地元の大工が、明治19年に左右対称の擬洋風建築を建設しました。

8 生野義挙碑
文久3年（1863）10月の生野義挙（生野の変）の事跡を後世に伝えるため、昭和15年（1940）に代官所跡地に碑が建立されました。生野義挙は　勤王の志士と但馬の農民が一緒になって生野代官所を占拠した事件ですが、わずか3日で破陣となり明治の世まで生き延びた者は数人でした。
この生野義挙は明治維新の魁となったと言われています。

9 来迎寺
松尾芭蕉翁親琛：芭蕉は大阪で亡くなったとき、遺品を主だった弟子に与えました。弟子のひとり広瀬惟然が裳をもらい、同門の松岡青蘿がその一部を譲り受けて、生野の弟子たちと共にここに埋めたもの。

10 東西寺
徳川家康公の木像と二代から十四代までの徳川歴代将軍位牌が祀られています。（朝来市指定文化財）

11 西福寺
生野銀山近代化に貢献したフランス人技師コワニュが、明治元年（1868）に生野へ来て最初に宿舎として利用しました。境内には青山熊治の記念碑もあります。

12 金蔵寺
鎌倉時代に造られ、鳥取市最勝寺に奉納された鉸鎖で、秀吉の鳥取攻めの際に和田山町東河に運ばれました。その後、金蔵寺に納まった但馬最古の貴重な鉸鎖です。（県指定文化財）

13 教徳寺
初代生野町長の丸尾八右衛門の功績をたたえる寿蔵碑があり、5本筋の入った壁は、天正期に本願寺12代法主教如上人のお掛所（休憩所）の名残です。

14 禅操寺
神宮寺（山神社）より移された毘沙門天（びしゃもんてん）像があり、生野銀山の歴代鉱山長は、正月になると必ずここを参拝しました。明治4年の鉱山焼き討ち事件で命を絶たれた生野県役人の白州文吾の墓と墓碑があります。

15 妙詮寺
近代洋画家、生野三巨匠のひとり和田三造の兄、和田正造の記念碑があります。

16 本行寺
本堂には、きれいな瑠璃色の山号額があります。フランス人技師ポール・レルムの娘の墓や、民俗学者の柳田国男の祖父で、生野で医師や学者として活躍した真継陶庵の墓などがあります。

町名由来

生野町
『播磨国風土記』によると「生野」という土地には昔から荒ぶる神がいて、往来する人間の半分を殺すので「死野」と呼ばれていましたが、応神天皇がこれは悪名だからと「生野」と変えたと記されています。

口銀谷（くちがなや）・奥銀谷（おくがなや）
口銀谷は、役人や商人の住む商業の町でした。また過去において城下町ともいうべき地方官庁の所在地にもなっていました。
それに対して、奥銀谷は実際に採鉱などに従事した人が多く住んでいた為、鉱夫の町と言われていました。